JSP ニュース

2021年4月1日～2021年9月30日

2021年 冬

No.91

証券コード：7942





代表取締役社長　大久保 知彦

JSPニュース No.91　Contents

新社長就任インタビュー	01
特集	03
トピックス	05
連結財務ハイライト／連結セグメント情報	07
株主優待制度／配当実績	09
会社情報	10

Q1 自己紹介をお願いします。

6月29日に社長に就任いたしました大久保です。今後とも宜しくお願い申し上げます。

前職は三菱ガス化学㈱の取締役常務執行役員として基礎化学品部門を担当し、主にポリエステル原料、メタノールやエネルギー資源など汎用化学品、バルクケミカルの事業運営に従事し、国内外の合弁会社の経営や海外プロジェクトの推進などで経験を積んでまいりました。発泡樹脂事業では新人ですが、これまでの経験を活かしてすべてのステークホルダーの皆様と一緒にJSPを発展させるべく全力を尽くしていく決意です。ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

Q2 新中期経営計画初年度で、特に注力していこうと考えていることをお聞かせください。

今は新型コロナウイルスによる経済活動の制約から徐々に回復を目指していく時です。しかし、その反動もありエネルギー価格は高値で推移し、原材料価格も上昇しコストを圧迫しています。また需要面では、半導体や部品供給不足の影響により自動車生産台数は制約を受けています。このように、私たちの新中計「Change for Growth」は、極めて厳しい環境の下でスタートいたしました。しかし厳しい状況であればこそ、基本をしっかりと固めて計画の実現に向け一つ一つ、丁寧に対応していきたいと思います。新中計の二つの基本コンセプト「経済価値だけでな

く、顧客や社会の課題解決などの社会的価値を拡大する」と「経営基盤の強化」を着実に進めます。特に期初よりサステナビリティ推進室を立ち上げ、新たな視点で事業運営を行っています。また、成長戦略として掲げた4つの成長エンジン（自動車部品、建築住宅断熱材、フラットパネルディスプレイ関連保護材、新たな事業領域）で成果を一歩一歩積み上げるため、お客様や社会の要請を良く学び、JSPの持つ力を最大限に活かすべく研究や技術開発を推進してまいります。これまで積み上げてきた実績も踏まえ、新たな領域へのアプローチやM&Aなどの手法も用い機を逃さずに対応していく所存です。

Q3 JSPの企業価値を高めるための重点策は何でしょうか。

最も大切な事は、事業を成長させ拡大していく事だと思っています。これまで同様に技術を磨き、新しいアイデアを生み出していく力をさらに磨きます。ここに、新たな視点として、SDGsやパリ協定などを念頭に、広く社会全体の持続的発展への貢献にも重心を掛けていきます。発泡樹脂の可能性を拡大しながら、さらに既存事業で培った経験や知見を活かした様々な機能やサービスも提供していきます。発泡樹脂を主力事業とするJSPにとって、もちろん廃プラスチック問題は大きなテーマです。プラスチックの持つ特性を最大限に活かしつつも、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を高度に実現する事にも注力してまいります。

また、変化の激しい社会において確実、着実な事業運営を継続していくために、ガバナンスを一層強化するとともに、労働環境、安全衛生の改善と働きやすさの向上を続け、人材の育成にもより一層注力してまいります。持続的な成長と新たな価値の創造に向けて全世界に広がるグループ会社も含め、多様な人材が活躍できる場を広げていきたいと思います。JSPグループは、そこに関わる全ての人々にとって自由で開かれた場となりたいと考えております。

Q4 最後に株主の皆様に一言お願いします。

JSPは樹脂の発泡から、加工、成形へと実績を積み重ね、発泡樹脂の新たな需要の開拓にも積極的に対応してきました。発泡樹脂は、保温断熱や軽量化、省資源といった機能を通じ、現在求められる社会の持続可能性向上に貢献してきました。そしてこれからも更に快適な社会の持続的発展にもお役に立てると信じております。この確信に基づき、社会の要請を広く捉え、私たちの持つ技術、製品をいかに活かしていくか、お客様とも一緒に検討してまいります。

JSPは2022年1月に創立60年を迎えます。新型コロナウイルスの影響は、当面の間は様々な形で事業環境を厳しいものにしていくかも知れませんが、私たちはこれからも「創造的行動力による社会への貢献」という企業理念のもと、経営方針である「Deliver with WOW!」を実行していくことで新たな未来を切り拓いてまいります。今後とも一層のご支援を心よりお願い申し上げます。

2021年12月

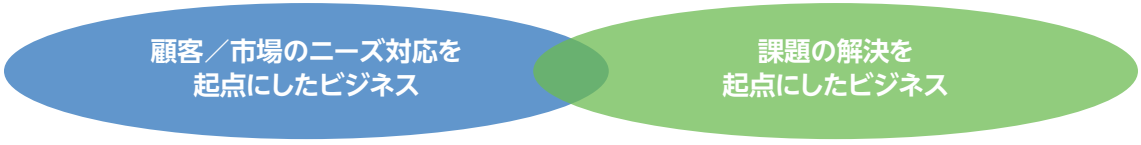
サステナビリティ推進室の発足

2062年に創立100周年を迎えるJSPは、40年後も社会課題解決に貢献し、世界の変化に対応できる会社であり続けるために、2021年4月にサステナビリティ推進室を新設しました。

発泡プラスチックの総合メーカーとして、海洋プラスチックなどの環境問題に正面から挑み、サステナビリティ（持続可能な社会）に貢献するため、JSPは社会課題の解決に挑んでまいります。

サステナビリティ推進室の使命

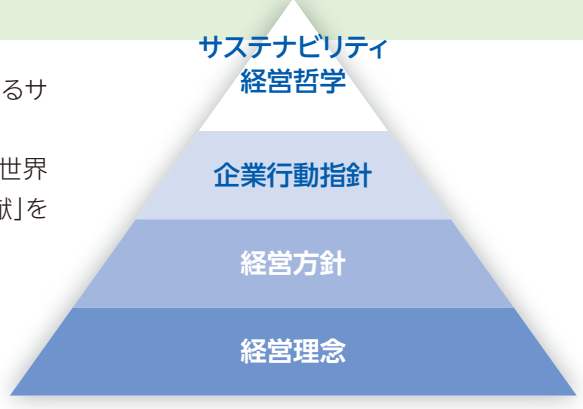
サステナビリティに関する情報を統括し、各部門および従業員へ働きかけることが主な役割です。部門と部門をつなげ、顧客や市場のニーズに応えるビジネスと社会課題の解決を起点にしたビジネスの両方を推進することで、**サステナビリティ経営の実現**を目指します。



サステナビリティ経営哲学

サステナビリティ経営を推進するにあたり、その哲学であるサステナビリティ経営哲学を制定しました。

ベースとなる企業理念や経営方針に立脚し、持続可能な世界と企業を目指すため「サステナビリティ社会への創造的貢献」を哲学として100年続く企業を目指しています。



ヨーロッパでの取り組みのご紹介

社会全体で環境意識が高いヨーロッパ地域。JSPの欧州地域でも他の地域に先行して、その活動は活発化しています。このページでは、現地の取り組みや実績についてご紹介します。

リサイクル原料と再生可能エネルギーの導入

JSPのヨーロッパでは、2011年より生産プロセスにおける直接的なCO_2排出量と水の使用量を削減するという目標を設定しました。

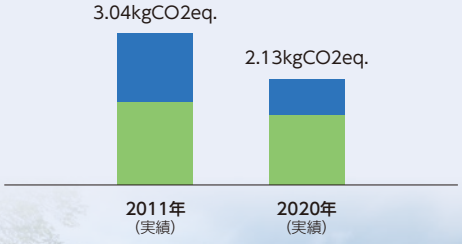
また、2010年には15%のリサイクル原料を含んだピーブロック®(現地製品名:ARPRO®RE)を開発しました。

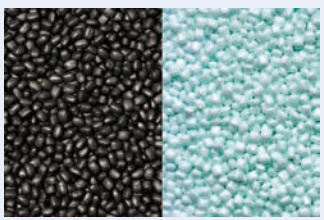
そして2017年に主要顧客である自動車メーカーが出した声明により、JSPヨーロッパもリサイクル原料を25%含むピーブロック®の新グレードを開発しました。

生産設備としては、欧州全ての地域で再生可能エネルギーに移行したことで、製造プロセスからの二酸化炭素排出量は50%以上削減されました。

今後、グループ全体でこの動きを共有しサステナビリティ活動を全社的に推進します。

ヨーロッパ地域でのピーブロック®
カーボンフットプリント(CO2eq.kg/ARPROkg)





リサイクル原料を用いたピーブロック®のビーズ



成型品



国内事業所紹介

開発センターのご紹介

「新たな事業領域」の創出を実現

新中期経営計画でも重点課題の一つとして掲げている「新たな事業領域」。
この課題に挑んでいるのが新事業開発本部です。
この新事業開発本部は昨春、栃木県鹿沼市に開発センターを設立しました。


開発センター外観

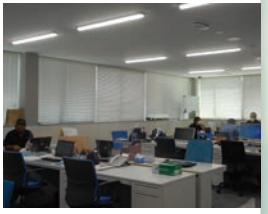


従来、新事業開発本部のメンバーは、東京の本社と栃木県鹿沼研究所に分散して活動していました。また一部の実験装置は三重県の四日市研究所に設置し、試作や改良を行っていました。

新設した開発センターにはほぼ全員が集合し、そこを拠点とすることで、情報共有の効率化や開発に関するパフォーマンス向上が図れており、当初の目的通りの成果を発揮しています。



1階エントランス


2階執務スペース


ショールーム完成イメージ

また、開発センターでは2022年春のオープンを目標に、ショールームを建設中です。

このショールームはJSPのブランド力向上を目的に、発泡製品の価値や、サステナビリティの要素なども盛り込んだJSPの目指すべき将来像といったテーマを、来場した方々に表現できる設備になっています。「新たな事業領域」の創出を目指し、今後も新事業開発を進めてまいります。

JSPカレンダー

2021





5

5月21日 「機関投資家向け決算説明会」をオンラインにて開催いたしました。

6

6月29日 「第63回定時株主総会」を開催いたしました。

7

7月30日 「2022年3月期 第1四半期決算短信」を開示いたしました。

9

9月30日 「労働施策総合推進法に基づく中途採用比率の公表について」を開示いたしました。

10

10月27日～29日 「高機能材 EXPO ONLINE」にオンライン出展いたしました。

10月29日 「2022年3月期 第2四半期決算短信」
「新市場区分「プライム市場」選択申請に関するお知らせ」を開示いたしました。

11

11月12日 「機関投資家向け決算説明会」をオンラインにて開催いたしました。

11月24日～26日 幕張メッセで開催された「第7回 鉄道技術展」に出展いたしました。

今後の予定

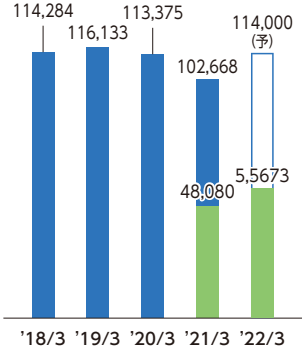
12月8日～10日 東京ビッグサイトで開催される「社会インフラテック2021」に出展いたします。

連結財務ハイライト

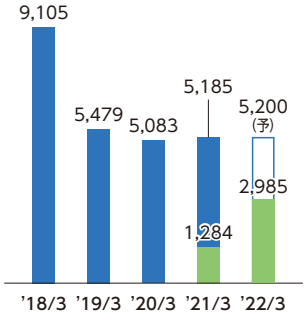
Consolidated Financial Highlights

通期　第2四半期累計　　(単位:百万円)

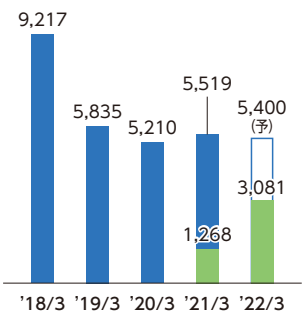
売上高



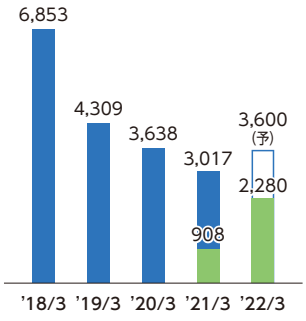
営業利益



経常利益



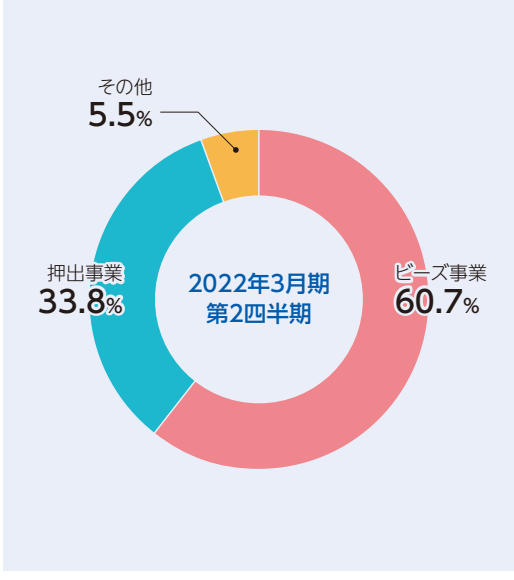
四半期(当期)純利益



連結セグメント情報

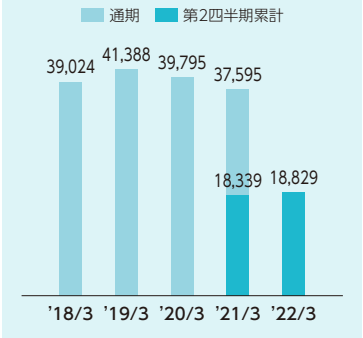
Consolidated Segment Information

事業別売上高構成比



押出事業

売上高の推移 (百万円)





スチレンペーパー(食品容器)

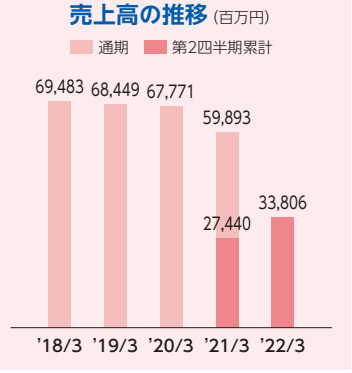


ミラフォーム®(断熱材)

「スチレンペーパー」を中心とした生活資材製品は、巣ごもり需要が継続しているものの前年からは売上は減少しました。「ミラマット®」を中心とした産業資材分野では、汎用品に加え、付加価値の高いフラットパネルディスプレイ表面保護材用途等を中心に販売が大幅に増加しました。
建築・土木分野向けの「ミラフォーム®」は、土木分野向けは減少しましたが、建築分野向けが増加し前年同期並みになりました。

(単位:百万円)	2018/3	2019/3	2020/3	2020/9	2021/3	2021/9
売上高	114,284	116,133	113,375	48,080	102,668	55,673
営業利益	9,105	5,479	5,083	1,284	5,185	2,985
経常利益	9,217	5,835	5,210	1,268	5,519	3,081
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	6,853	4,309	3,638	908	3,017	2,280
純資産	84,105	84,141	84,646	83,389	85,561	89,752
総資産	125,270	129,229	128,445	126,211	129,053	132,678

ビーズ事業





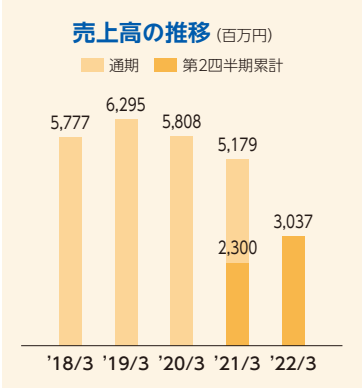
ピープロック®(自動車部材)



スチロダイア®(魚箱・野菜箱)

発泡ポリプロピレン「ピープロック®」は、新型コロナウイルスの感染再拡大の影響や半導体などの部品供給不足の影響はありましたが、特に欧州では自動車・非自動車ともに好調に推移し、中国では緩衝包装材用途が堅調でした。
発泡性ポリスチレンビーズ「スチロダイア®」は、水産・農業分野などでの需要が堅調に推移しましたが、原材料価格高騰の影響が大きく、製品価格の改定を進めています。

その他



国内向け一般包材は自動車部品輸送関連等の販売が回復したことで増加しました。
中国向け一般包材も各種部品関連の需要が好調に推移したことで、その他全体で売上は増加しました。

株主優待制度



〈デザイン見本〉

■対象株主様

毎年3月31日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載または登録された1単元(100株)以上を保有されている株主様

■優待の内容

一律3,000円相当の、社会貢献寄附金付オリジナルクオカード(株主様は3,000円全額ご使用いただけます)

■贈呈の時期

毎年の定時株主総会終了後に発送予定

■社会貢献寄附金「緑の募金」について

1995年に制定された「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき、(公社)国土緑化推進機構及び各都道府県緑化推進委員会が行っている募金です。集められた寄附金は、森林整備・緑化推進事業・森林に関わる人づくりなどに活用されています。

配　当　実　績

■株主還元方針

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な政策として位置付けております。利益の配分につきましては、安定した配当を重視するとともに、各事業年度の連結業績と将来の事業展開に必要な内部留保の充実などを勘案しながら、総合的に決定する方針としております。

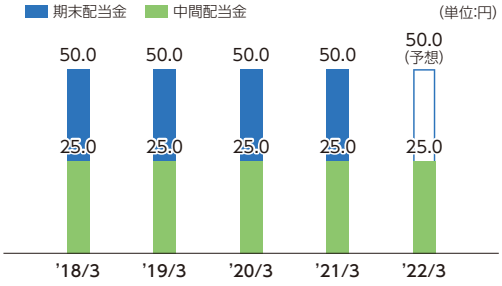
内部留保資金につきましては、財務体質の強化とともに、今後の新製品、新技術への研究開発投資や新規事業展開のための設備投資に充当してまいります。

なお、当社は、会社法第459条第1項に基づく剰余金の配当を取締役会決議により行うことができる旨定款に定めており、中間配当及び期末配当の年2回の取締役会決議による配当を基本的な方針としております。

■当期配当金

2022年3月期第2四半期の1株当たりの配当金は25円とさせて頂きます。期末配当金は1株当たり25円(通期配当金額50円)とさせて頂く予定です。

■配当実績



会社概要

商号	株式会社JSP
所在地	本社　東京都千代田区丸の内三丁目4番2号
事業内容	発泡プラスチック、 その他合成樹脂製品の製造販売および輸出、 土木・建築工事の設計・請負および管理
設立	1962年(昭和37年)1月
資本金	10,128百万円
決算期	3月
従業員数	772名(出向者除く) 連結2,957名(国内:1,352名、海外:1,605名)
事業所他	5営業所、1出張所、11工場、2研究所
主要関係会社	国内9社、海外27社

大株主

株主名	株数(千株)
三菱瓦斯化学株式会社	16,020
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,354
株式会社日本カストディ銀行	1,245
JSP取引先持株会	1,205
RE FUND 107-CLIENT AC	500
SMBC日興証券株式会社	366
JSP従業員持株会	309
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	301
日本生命保険相互会社	241
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT	230

当社は自己株式1,604千株保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 ℡ 0120-232-711(通話料無料) (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う https://www.co-jsp.co.jp/ir/index.html (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行する日本経済新聞に公告いたします。)

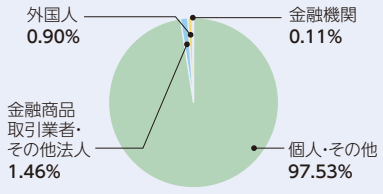
(ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

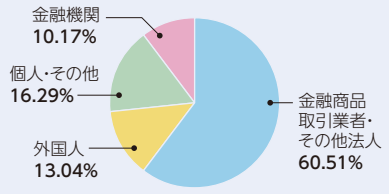
株式の状況

発行可能株式総数	46,000,000株
発行済株式の総数	31,413,473株
株主総数	18,101名

株主数別分布状況



株式数別分布状況



本社・事業所一覧

Network

本　社			TEL
	〒100-0005	東京都千代田区丸の内3-4-2(新日石ビル)	03-6212-6300

営業所			
札幌	〒060-0003	札幌市中央区北3条西1-1(サンメモリアビル)	011-231-2681
仙台	〒980-0811	仙台市青葉区一番町2-4-1(読売仙台一番町ビル)	022-262-3271
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦3-4-6(桜通大津第一生命ビル)	052-962-3225
大阪	〒541-0053	大阪市中央区本町1-6-16(いちご堺筋本町ビル)	06-6264-7900
福岡	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東1-12-17(五幸ビル)	092-411-6854

出張所			
広島	〒732-0052	広島市東区光町1-12-20(もみじ広島光町ビル)	082-568-0566

工　場			
北海道	〒067-0051	北海道江別市工栄町23-4	011-384-1621
鹿沼第一	〒322-8511	栃木県鹿沼市さつき町17	0289-76-2211
鹿沼第二	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町5	0289-76-3271
鹿沼第三	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-2	0289-76-5905
鹿沼ミラフォーム	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町13-1	(FAX)0289-76-3227
事務管理センター	〒322-8511	栃木県鹿沼市さつき町17	0289-76-2211
鹿沼物流センター	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町13-1	0289-76-2121
再資源センター	〒322-0026	栃木県鹿沼市茂呂638	0289-76-6606
開発センター	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町6-1	0289-76-3815
鹿島	〒314-0103	茨城県神栖市東深芝16-3	0299-93-4111
四日市第一	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1220
四日市第二	〒510-0955	三重県四日市市北小松町1600	059-328-2563
関西	〒679-4304	兵庫県たつの市新宮町下笹515	0791-77-0213
北九州	〒800-0229	福岡県北九州市小倉南区曽根北町2937-7	093-474-7211
九州	〒861-0111	熊本県熊本市北区植木町宮原553	096-274-7101

研究所			
鹿沼	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-3	0289-76-1600
四日市	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1245

海外／工場

北　米

- JSP International, LLC. (アメリカ)
- JSP International de Mexico, S.A. de C.V. (メキシコ)

南　米

- JSP Brasil Industria de Plasticos LTDA. (ブラジル)

欧　州

- JSP International S.A.R.L (フランス)
- JSP International s.r.o. (チェコ)

アジア

- JSP Foam Products, PTE. LTD. (シンガポール)
- Taiwan JSP Chemical Co., LTD. (台湾)
- KOSPA Corporation (韓国)
- JSP Advanced Materials (Wuxi) Co., LTD. (中国)
- Kunshan JSP Seihoku Packaging Material Co., LTD. (中国)
- JSP Advanced Materials (Dongguan) Co., LTD. (中国)
- JSP Advanced Materials (Wuhan) Co., LTD. (中国)
- JSP Foam Products (Thailand) Co., LTD. (タイ)

JSP

発行　株式会社 JSP

東京都千代田区丸の内三丁目4番2号新日石ビル
広報IR室　TEL.03-6212-6306　FAX.03-6212-6387
ホームページ　www.co-jsp.co.jp

ノンVOCインキ Ver.2

R70 古紙配合率70%再生紙を使用しています

〔表紙〕
ノルウェー ソグネフィヨルド
Photo by: S.Yoshida